

# 大志を育む



令和6年3月7日

教育委員会だより

No. 57

発行：北広島市教育委員会

## これまでの小中一貫教育の取組を踏まえて

学校教育課 課長 川又 洋火

平成30年度から小中一貫教育を全市一斉導入して以来、9年間の学習を系統的・継続的に行うこと、教師と子ども、学校と家庭、地域のかかわりを大切にすることなど、「学びをつなぐ」「大志をつなぐ」「人と人をつなぐ」という3つの「つなぐ」をキーワードに、具体的な取組を実践してきました。

その間、令和3年度に「小中一貫教育全国サミット in 北広島」を開催し、義務教育9年間を通して子どもたちの「生きる力」を育む小中一貫教育の成果を発表し、全国より高い評価をいただきました。さらに令和5年度に、全市小・中学校でコミュニティ・スクールを導入し、親和性の高い小中一貫教育とコミュニティ・スクールを基盤として、各中学校区において家庭・地域と目指す子ども像を共有し、義務教育の9年間を通じた連続的・系統的な教育を進め、確かな学力と豊かな人間性・社会性を身につけた、未来を拓くたくましい子どもを育成してきました。

また、昨年5月には新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行され、様々な学校教育活動が流行前に近い状態で実施できるようになり、子どもたちが安心して充実した学校生活を送るため、各小中学校区の特性を生かした日々の授業実践や研修・研究活動など、様々な取組が行われました。

昨年12月に実施した児童生徒アンケート結果では、「学校が楽しい」「自尊感情」「社会貢献度」「規範意識」の質問について、小中一貫教育の全市導入前の平成29年度の結果と比較し、肯定的な回答の増加が見られ、中学校区における児童・生徒の指導の一貫性が結果として現れていると考えています。

アンケート項目	肯定的な回答の割合			
	小学校		中学校	
	H29	R5	H29	R5
学校が楽しい	84.1%	88.3%	82.8%	87.0%
夢や目標	89.5%	89.3%	69.7%	82.7%
自尊感情	74.1%	81.4%	64.5%	83.1%
社会貢献度	93.8%	96.6%	92.0%	95.8%
規範意識	87.3%	94.0%	91.8%	96.2%

来年度の本市学校教育の推進方針における学校教育の重点は、「持続可能な社会の創り手を育む教育～コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育の取組を通して～」と決めました。将来の予測が困難なVUCA（ブーカ）と言われる時代において、一人一人のウェルビーイングを実現していくためには、未来に向けて自らが社会の創り手となり、課題解決などを通じて持続可能な社会を維持・発展させていくことが求められています。そのために、コミュニティ・スクールを基盤とした家庭・地域・学校等の連携「横の小中一貫」と、小学校と中学校の連携「縦の小中一貫」との一体化した取組を通して、学びを保障し、子どもの個性やよさを十分に伸ばし、社会性等を育み、社会の持続的な発展を生み出す人材を育成していかなければなりません。

これまで積み重ねてきた小中一貫教育は本市における特色ある教育として位置づけ、教職員の皆様と一体となり、可能性をより一層広げていきますので、引き続きご理解とご協力をお願いします。



# 西部中学校区

## 小中一貫教育の取組



### 1. 令和5年度の小中一貫教育

西部中校区ではこれまでの蓄積を土台に『小中一貫教育の漸進』を目指し、家庭学習の強化や乗入授業、生徒指導事例の共有、合唱鑑賞を通じた文化交流などの取組を進めてきました。

校舎が隣接するメリットを生かし、乗入授業と合同授業は延べ16回実施し、体力テストの結果の向上や小6児童の中学校に対する意識の変化など大きな成果がありました。

(2)合同授業・乗入授業実施状況

日	日にち	対象	教科等	授業者など	備考	
1	6月20日火	小1・5・1	中2	体育	小1 川村美咲 中1 齋藤達也	合同体力テスト
2	7月5日火	小1・5・1		体育	小1 川村美咲 中1 齋藤達也	T.T ※会場西部小
3	7月6日火	小1・5・1		体育	小1 川村美咲 中1 齋藤達也	T.T ※会場西部小
4	7月11日火	小1・5・1		体育	小1 川村美咲 中1 齋藤達也	T.T ※会場西部小
5	7月22日土	小1・6年	中3	総合的な学習の時間	小1 小6担任ほか 中3 担任ほか	CS防災訓練 (合同学習)
6	7月22日土	小1・6年		算数	中高橋健一	
7	7月25日火	中1		数学	小1 山本・金山	夏休み学習会支援 ※会場西部中
8	9月25日火	小1・4年	中1	総合的な学習の時間	小1 小4担任ほか 中1 担任ほか	CS/DIG地域の安全マップづくり
9	10月2,3,4,5日	小1・6・5年	中1	部活見学会	中1 西部中部活動顧問	体育館・グラウンド・音楽室
10	11月29日水	小1・5年	中2	総合的な学習の時間	小1 小5担任ほか 中2 担任ほか	CS/DIG災害訓練 ※会場西部小
11	12月6日水	小1・6年		英語	中1 旗手あさぎ	小6年1組
10	12月12日火	小1・6年		数学	中1 高橋健一	※小6中学校登校
12	12月12日金	小1 あかがら		自立	中1 杉原真貴 中1 松尾もと子	福祉級との合同授業
13	1月30日火	小1・6年		特活	中1 高橋健一	中学校登校体験 ※会場西部中
14	2月29日,3月14,5日	小1・6・5年	中1	部活見学会	中1 西部中部活動顧問	体育館・グラウンド・音楽室
15	2月14日水	小1・6年		国語(書写)	中1 野田朝日郎	西部小(6年1組)
16	2月19日木	小1・6年		理科	中1 鈴木真樹	西部小(理科室)

以下の写真は11月に実施されたCS災害図上訓練の様子です。小中一貫サミットでは「Doはぐ」として実施しましたが、今年度は児童・生徒の活動を活発にするとともに、CS委員の関わりを強化することをねらい「DIG」をベースにした授業として再構成しました。このようにこれまでの実践に改善を加えながら一層の充実を図っています。



また、職員同士が顔を合わせて交流する機会も意図的に増やしました。第2回の小中一貫会議では、小中の教職員が集まって1時間、西部中校区の児童生徒の姿を3つのテーマ(小中一貫教育・学習指導上の課題・生徒指導上の課題)に沿って語り合いました。校舎が隣接しているとは言え、小中の全職員が

顔を合わせて交流する機会は多くありません。児童・生徒の実態や日常実践の中で感じている課題について共通理解を図る機会となりました。この日に交流した一人一人の意見はオンラインホワイトボードに記録し、後日、通信として還流しました。



### 2. 成果と課題

#### 令和5年度小中一貫教育の成果



児童生徒の交流、乗入授業が学びの刺激を与えた。

- 小学生は中学生の活動を通じて刺激を受け、学びの幅を広げたり、向上を意図するきっかけとなった。
- 中学生は合同授業で指導、支援する立場となり、リーディングや教える技術を向上させる機会となった。



防災学習は一層の精度向上と系統化を図ることができた。

- 昨年度の反省を踏まえた授業づくりによって、3つの防災学習の精度がそれぞれ向上した。
- 防災学習が系統的に行われることで、災害に対する認識が強化され、安全意識が高まった。



小中一貫教育は運営が成熟した。

- 小中一貫教育が成熟し、教職員・保護者・地域の間でメリットや成果が共有され、改善に向けた取り組みが行われるようになった。

多くの成果のあった令和5年度ですが、課題もあります。低学年への小中一貫教育の浸透や主体的に学ぶ姿を育てる授業や家庭学習の在り方などです。

#### 令和5年度小中一貫教育の課題



低学年の具体的な活動が不足している。

- 低学年には小中一貫教育に関する直接的な活動に参加できる機会が無く、中学校とのつながりを意識する機会が不足している。



職員の交流を実施する時期の調整と進捗管理に課題がある。

- 教職員が実際に学校へ出て授業を参観するなどの交流時期の調整や参加しやすい体制作り課題。
- 学校行事との兼ね合いや教育活動のタイミングを考慮することが重要だが、調整が難しかった。



学習の主体性や自己学習への取り組みが不十分がある。

- 学習の主体性や自己学習への取り組みが不足している。
- 特に家庭学習において依存的な学習スタイルや自律性の欠如が生じており、学びの質の向上を阻害する要因の可能性がある。

令和6年度は、今年度の成果を継続しながら、課題である低学年への小中一貫教育の浸透や主体的な学びの促進に力を注ぎます。次年度も、小中一貫の連携を強化し、より良い教育環境を築くために西部小・西部中、一体となって全力を尽くします。

(文責：西部小学校・山本)